

KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 90



**わたげ分場で働くHさん、道具を使う作業に挑戦し、見事獲得しました。
真剣に仕事に向き合う姿は見ていて惚れ惚れします！
詳しくは紙面にてご紹介致します。**

目次

- ・「『止ま』れない」 理事長 佐藤哲也 《2ページ》
- ・「W・D・S・N 14 (Watage Daily Support News)」
～わたげ編 《3～5ページ》
～わたげ分場編 《6～7ページ》
- ・「お～い！ごとくーん！」 《8ページ》
- ・ものどらつくまるちどらつく 《9ページ》
- ・後援会のご案内・決算報告 《10ページ》
- ・編集後記（編集部） 《10ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 100円

「止ま」れない

理事長 佐藤哲也

地球温暖化が深刻化してきた今、環境に優しい住まいとしてオール電化の電気設備を採用する家庭が増えているようです。

最近、私の近所の家でもガス設備をオール電化に変える工事が行われ、それに伴い、その家の前の道路に埋設してあるガス分岐管を撤去する工事がありました。3m幅程のアスファルト舗装をはがし、配管の撤去と舗装の仮復旧を1日で終了しました。そして2週間ほど後にアスファルト舗装の本復旧工事が行われ、それから数日後に路面の文字書きをして一連の工事を完了しました。

私が通りがかりにその場所を見ると何か違和感がありました。その理由は「止まれ」の文字書きが変なのです。「止ま」の文字だけが新しく書き直してあり、「れ」は以前のまま摩耗して読みにくい状態になっていました。

詳しく調べてみますと「止」の文字の下の横棒が工事範囲内に入っています。「ま」の文字の上側2/3も入っています。しかし、「れ」は外れていることに気がつきました。

残念ながらこのように不完全な路面標示では、車は確実に「止ま」れないでしょう。

このことから分かったのは、工事範囲にわずかでも入っている文字は書き直すが、入っていない文字はそのままにしておくということです。施工会社は施工基準通りに工事を行ったのですが、路面標示は何のためにあるのか、道路交通法に対する施工会社の社会的責任はどうか、なぜあと一文字「れ」を書き直すことができないのかなどと考え、私はとても複雑な気持ちになり、しばらくの間かすれた「れ」の文字を見つめていました。

そして私は何かをやる時には、何のためにそれをやるのかという目的を理解し、納得することが大切だということを改めて感じたのでした。また、規則通りに業務遂行をすることは重要なことですが、それにプラスアルファを付加することにより、相手との間にプラスの効果が生まれ、自分自身もやりがいを見出すという、相乗効果が期待できることもあるのではないのでしょうか。

何らかの社会的支援を必要とする方々に接する当法人のような事業は、人が人に対してサービスを提供するヒューマンサービスであり、忍耐強さと状況の変化に的確に対応する順応性が求められます。それはスキルの裏付けとともに人間性がキーポイントになります。豊かな人間性を育むためには、社会福祉の領域に留まらず、広い視点からいろいろなことを学び、体験することが重要です。

当法人はこれからも、自閉症を伴う方々へ少しでもプラスアルファのサービス提供ができるよう、長期事業に則った人材育成に努めて参りたいと考えています。

「W・D・S・N 14(Watage Daily Support News) わたげ編」 ～ フルモデルチェンジ ～

服部さんは、車に興味があり、とてもマニアック。新車の販売店はどこなのか、排気量はどうか・・・。車に詳しい職員と熱いトークを繰り広げています。その中で、モデルチェンジの話題がよく出ます。ある一部分をチェンジするのが「マイナーチェンジ」。それに対して、ガラリと全てを一新するのが「フルモデルチェンジ」というのだそう。昨年12月に、服部さんはこれまでのスケジュール、作業ルールを一新しました。今回は、その取り組みをご紹介します。

<フルモデルチェンジ前の服部さん>

服部さんは、主にケーブル作業に取り組んでいます。これまで、作業1回45分という制限時間の中で、目標量を設定して取り組んでいました。しかし、作業に集中できず、45分以内に目標量が終わらないこともありました。本気を出せば、もっとたくさん仕事ができるはずなのに・・・。こちらが期待していることが伝わっていないのではないかと。そう考え、期待することを分かりやすく伝えるために、スケジュールと作業のルールを一新することにしました。

また、これまでのスケジュールは「昼食 12時30分」というように、時間を指定していました。しかし、実際にはスケジュールとは違う、自分で決めた時間で行動している様子がありました。スケジュールで指定された時間は、服部さんにとって意味がないものなのではないかと。そこで、1日の流れの大枠の中に、意図的にルーズな部分を作り、自分で判断して行動してもらおう、と考えました。

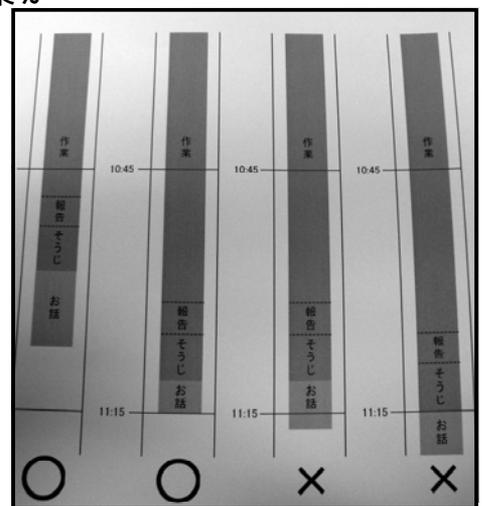
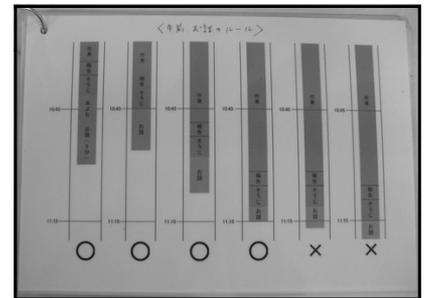
お話の時間マニュアル

<新しいスケジュールと作業ルール>

作業1回毎の制限時間はなくして、シンプルに目標量を達成したら終わり、としました。ポイントとなる作業以外の活動の時間を、幅を持たせた枠組みで設定しました。例えば、服部さんが楽しみにしている、午前、午後1回ずつの職員とのお話の時間を、30分の枠で設定しました。午前は10:45から11:15の間です。それまでに作業が終わってれば、30分の中の6分間、お話ができます。時間を把握しながら、自分で判断して行動することが求められるため、専用のデジタル時計をスケジュールに貼り付けて提供することにしました。

また、新しいスケジュールの使い方、作業の進め方、時間のルールなどについて、服部さんと職員とで、お互いに目で見確認できるマニュアルを用意しました。

取り組み開始は12/1。1週間前に、スケジュールと仕事のルールが変わることを予告しました。そして前日。マニュアルと一緒に見ながら、詳細をお伝えしました。マニュアルをじっと見ながら、職員の説明に静かに頷いていました。説明が終わると、これまで使ってきたスケジュールを指さし、「11/30おわり」、新しいスケジュールを指さし「明日」と、文字盤を使って職員に伝えました。





また、「本を読む時間はいつか」と質問が出ました。スケジュールに、休憩時間は設定していましたが、具体的に本を読む時間を明記していなかったのです。いつが本を読む時間なのか、分かるようにスケジュールを修正して渡すと、納得した様子でした。

いよいよ新しい取り組みの初日。通所してすぐに、スケジュールから時計をはがしてしまいました。活動で時計が必要であることを伝えましたが、その後も時計を外していいか、職員に確認がありました。いざ、作業開始。真剣な顔つきで、集中し

てケーブルを剥く服部さん。結果、設定時間の枠内で、全て目標達成！ですが、ハンディタイプのスケジュールは、なぜか専用の置き場所に入れることはなく、机の上に放るよう

に置かれていました。2日目。1回目の作業で、見事に目標量をクリアした後、自分の引き出しから何かを取り出し、破り始めました。それは、数年前に服部さんが使っていた作業の出来高表でした。それが終わると、次々と過去の作業用具を捨てていきました。引き出しが空になったところで、2回目に取り掛かりました。その時から、スケジュールを、スケジュール入れに自分で入れるようになり、時計を外してもいいか？という確認もなくなったのです。過去のものを処分して、新しいモードに入った服部さん。まさに、服部さんにとって、「フルモデルチェンジ」をした瞬間だったのではないのでしょうか。

<自分で作業を選べる☆マーク>

ケーブル作業には、長いケーブルをカットする作業、ピーラーでケーブルの皮を剥く作業などがあります。服部さんは、特にカット作業を得意としています。大きなニッパーを使い、「ガッチャン」と音を立てて、次々と太いケーブルをカットしていく姿は、とてもかっこいいのです。でも、自分がやりたい作業と、こちらが提供する作業が、材料の都合で一致しない時もあります。そんな時、服部さんと職員の間でもめることがよくありました。やりたい作業を訴える服部さん。やる気は尊重したいけれど、常にやりたい作業だけを提供するのは困難です。

そこで、今回の取り組みでは、一日の作業4回の中で、作業種を自分で決められる回と、職員が設定する回を分けました。これもルールを作り、自分で決められる回は、作業表に☆マークを付けて伝えました。いつ自分で作業を選べるのかが明確になったことで、こちらが提示した作業に対して拒否がとても少なくなりました。自分がやりたい作業と違う作業が設定されていても、次の日に確実に自分で作業を選べる回があることを伝えると、落ち着いて受け入れてくれたのです。他の場面でも、何か訴えがあった時に、マニュアルを見ながらルールを確認することで、納得して受け入れられる場面が多くなり、お互いにとって気持ち良いやりとりが、多くなりました。



<目標量を話し合いで決めよう>

作業	目標	職員	完成
全むき(ベージュ)	100本	17日	100
全むき(ベージュ)	100本	17日	100
全むき(ベージュ)	100本	17日	100
全むき(ベージュ)	100本	17日	100

今回の取り組みを始め、目標値を楽々とクリアできることが多くなり、時間を持て余す場面も出てきました。そこで、1月から「作業打ち合わせ」の時間を取り、目標量を服部さんと職員で相談して決める取り組みを始めました。

打ち合わせ1回目。職員がこれまでの作業達成度を表にし伝え、目標量の増量を提案したところ、手を振り「やらない」と気乗りしない様子。増やす量をイメージしやすいよう、10ずつ増量した実物の材料を見てもらい、何本増量するかを選べるようにすると、10本増量を選び、了解してくれました。週1回、打ち合わせを重ねる中で、目標値を上げたい作業種と目標量を、ジェスチャーや文字盤を使って、服部さんの方から申し出るようになりました。

今、服部さんが積極的に増量しているのが片側剥きです。最初、150本だった目標値が、4か月後には、240本にまで増えました。なんと1.6倍です。作業を選できる回には、積極的に片側剥きを選んでいきます。3月は作業62回中、60回目標を達成しており、目標達成率は96%という成果が出ています。

<最後に>

「自閉症の人」は、慣れていることを続ける方が安心、変化や新しいことは苦手、というイメージはないでしょうか。今回の取り組みで、新しいモードに切り替え、真剣な顔つきで作業をする服部さんを見て、むしろ変化を求めていたのではないかと感じました。「今よりかっこよく、たくさん作業ができる」など、新しくすることで、自分にとってプラスになることを伝え、また、やり方をその人にとって分かりやすく伝えれば、受け入れてくれるのです。

私は「自閉症の人」は、時間がきっちり決まっていた方が分かりやすいというイメージを持っていました。でも服部さんは、意図的に設定したルーズな部分があるスケジュールの中で、力発揮して活動しています。時間を指定していた時は、スケジュールが意味のないものになっていましたが、自分で判断して行動する部分を作ったことで、スケジュールを意味あるものとし捉え、時間を意識して行動できるようになったのです。

今回の取り組みで、自閉症の人が持つ特徴を踏まえた上で、「自閉症の人だから」と固定観念に捕らわれてはいけないことに気付かされました。「その人にとって、より分かりやすい伝え方」「その人にとって、力を十分に発揮できるやり方」を、その人と一緒に見つけていくことが大切、ということをお教わりました。

かっこよくバリバリ作業をする服部さん、これからも活躍を期待しています！



「W・D・S・N 14(Watage Daily Support News 分場編)」 ～新たな作業に挑戦しよう!～

今回はHさんが新たに獲得したケーブルカット作業を紹介します。今までHさんは半分に剥いたケーブルを手で剥がす作業、ショッピングバッグの組み立て作業は取っ手を取り付ける穴を釘を使って開けていく作業を行ってきました。

剥がす作業一つとっても過去にこの紙面で紹介させて頂いた事もありますが、剥がす為に皮の部分だけクリップで留めて固定し、手で銅を引くだけの所から始め、現在では自分で手で剥く事が出来るようになっていています。過去の経緯を見れば段階を踏んで徐々に自立度が上がって来た事がわかります。

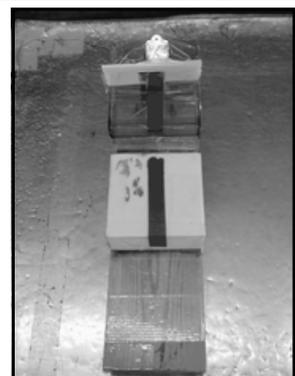
私はスムーズに手で皮を剥いている成長したご本人を見て「もっと難しい作業に挑戦してもらいたい」「ご本人にはまだ発揮していない能力がきっとある」という気持ちに駆られました。そこで、今まで経験の無い道具を使用した作業に挑戦する事にしました。

ケーブルカットの手順は以下のように行う事を決めました。

- ① クリップでケーブルを留める。
- ② 大ニッパーをとる。
- ③ 大ニッパーで切る。
- ④ ニッパーを所定の場所に置く。
- ⑤ ケーブルをクリップから外す。
- ⑥ 切る材料が無くなったら終わり。休憩に移動する。



切るポイントを示すために角材を用意し、そこにクリップと台を2つ乗せました。クリップでケーブルを固定し、台と台の間に出来る谷間でカットする算段です。ご本人は道具を使うだけでなく、6工程もある作業も初めてです。作業用の道具を作成後は、本人の身長から考えて道具や材料の位置、机の高さ、どうしたら「終わり」が理解できるか、シミュレーションを繰り返した後、実際に評価を行いました。



この評価をする上で注意したのは以下の点です。

いつもの作業エリアにいきなり新しい物を持ち込むと混乱を招くと考え、評価する為に別の作業エリアを用意しました。また、評価は午前中に行いました。午後であると食後で眠気が出たり、帰りの時間が気になってしまう事が考えられますが、午前中であれば集中力も高く、意欲を持って行えると考えた為です。

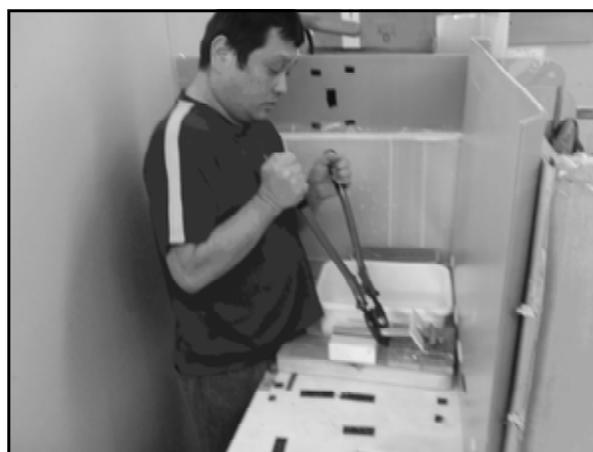
評価時に主眼を置いた点は、大ニッパーをどのように持つのか、クリップはどのように扱うのか、切るポイントをどのように見ているのかです。

評価を数回重ね、切るべきポイントを示す道具等に修正、変更を加えていきました。ケーブルをクリップで挟む際に曲がらないようにクリップの前に枠を作り、切るラインに沿って色テープを貼りました。また、切らないで完成品箱に入れてしまう事があり、完成品箱を切るべき長さに合わせて小さくしました。

3本のケーブルを切って貰いながら、2本手伝い、1本を見守る、次いで1本手伝い2本見守ると言った具合に徐々に支援の量を減らしていきました。徐々に自分で切り方がわかってくる段階を見るのは職員としてとても嬉しい事です。そして、修正を加えて使いこなせるようになった道具ごと作業エリアに持ち込みました。



自閉症のひとつの中には場所が変わると今まで出来ていた事が出来なくなる方もいます。作業エリアで行う時はまた始めから教えるつもりで関わりました。Hさんは1～2回手順を再確認すると以降は自分で行えるようになりました。大切なことは、良くできた時に、「よくできました」「ありがとう」ということを本人に分かる形で伝え、プラスの評価をして、安心させてあげたり、自信に繋げてあげることです。現在では1回15本を行い、導入当初1分弱だった作業時間を5分程度まで伸ばす事が出来ました。初めて道具を使用しながら開始当初より5倍も長く作業に取り組めるようになったのです。本人にとって大きな成長だと思います。自信を持って行っている様子が見てとれます。この作業はご本人ひとりだけに担っていただいている事もあり、責任感を持って行っている様子も見え、何か感慨深いものを感じます。利用者がまだ見せていない新たな力を見る事は支援者にとって何よりも嬉しい事で、これこそが支援の醍醐味なのではないでしょうか。



鈴井研二

『お～い、ごとく～ん！！』

横須賀市内では、満開だった桜の花びらが、その役目を終えて散り始めています。この時期、施設の事務所から窓の外に目をやると、山桜の花びらが風に乗って飛んできては、はらはら舞い落ちます。まるで、雪が降っているかのような景色で、とても風情があり、私の好きな季節でもあります。

桜の代名詞ともいえるのは、ソメイヨシノです。この桜は、聞く所によると、自然のままでは、増えることができないため、「接木」という手段を用いて、人の手で増やしてきたそうです。桜の花は、なぜきれいと感じるのか・・・その答えのひとつは、桜の花の特徴にあると思います。例えば、梅の花は、ひとつの蕾に、ひとつ花をつけます。しかし、桜の花はそうではないのです。ひとつの蕾から、3～7つの花を咲かせるそうです。ですから、すべてが咲きそろった時には、1本の木に何十万という花が咲き、人々の目を引きつけるのです。

世の中に 絶えて桜のなかりせば 春の今宵は のどけからまし

この世に桜なんてなかったら、春の人の心は、穏やかに過ごせるであろうに…いつ咲くのだろうか、もう散り行くのだろうか、桜の花に急かされる、どこことなく落ち着かない気持ちが背景にはあったのでしょうか。

散ればこそ いとど桜はめでたけれ うき世になにか 久しかるべき

惜しまれて散り行くからこそ、なおさら桜の花に惹かれるのだ、このつらい世の中に、久しく続くものは何があるのか、ありはしないのだ

春の桜に対する見方も、昔からさまざまあるものです。先週、施設の敷地の中に、「たけの子」が顔を出していました。当施設へお出でいただいた方はご存知の通り、施設の周囲は竹を中心とした、雑木林に囲まれています。普段は、この落ち葉が、排水を阻み、掃除に苦戦しているのですが、この季節には、視覚と味覚で私たちに春を感じさせてくれます。出てきた「たけの子」は、厨房職員に頼んで、給食に出してもらい、利用者の皆さんに、いち早く味覚から春を感じて頂きました。

桜の花を、急かされているようで、落ち着かない存在と見るか、散るからこそ惹かれると考えるのか、また、竹の存在を、落ち葉を落とす、厄介な存在と見るか、「たけの子」に春を感じるか、物事は見方によって、プラスにもマイナスにも解釈できると思います。

私たちが自閉症の人たちと向き合うときにも、同じことが言えると思うのです。マイナスの面、気になる面ばかり見て関わるのか、その人のできること、得意なことを見て、それを生かそうとして関わるのかでは、大きな違いがあります。前者は、いつも苦手を指摘され、難しい関係性にならざるを得ません。後者は、本人を尊重し、お互いが物事に前向きに関わることが可能となります。

また、新たな年度がスタートしました。一人ひとりの利用者の得意なこと、できることを大切にし、ご家族と協力しながら、利用者がより豊かに暮らせるよう、一步一步前進して参りたいと思います。

わたげ 施設長 後藤博行

たんぽぽ・ヨコスカ

ものどらっくまるちどらっく

No.42

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

篁一誠先生 わたげ来所

12月18日（金）、2月19日（金）に、篁先生（PDDサポーターセンターグリーンフォレスト）が来所されました。日中のわたげの様子を見ていただき、ケース会議にて講義と職員からの質問に対するアドバイスをいただきました。

先生のお話の中に、彼らが自分の意志や判断で出来るところと援助があって出来るところの見極めを定期的に行い、周囲が必要以上におせっかいをしないことも大切なのではないかというお話がありました。例えば、衣替えのタイミングについて、本人が半袖を選んだ時、周囲の目を気にして暦どおりの衣替えの日まで待たせるといご家族が意外に多い。大切なのは彼らにとってその人にとっての快適さであり、その人が判断したことについて、時にはそれを受入れ、その判断の結果を見て、支援が必要であるのなら次に繋げていくこともあって良いのではないかというお話が印象的でした。

広瀬宏之先生 わたげ来所

3月5日（金）に、広瀬先生（横須賀市療育相談センター）が来所され、ケース会議を行いました。前回に続き、『発達障害の理解と対応のコツ』というテーマでお話をいただき、また、職員からの個々の利用者の質問に対しアドバイスをいただきました。

早期発見をすることで、早い時期からその人の特性や困っていることを周囲が理解し、持っている力や関心事を活用し最大限発揮できるような支援を行うことが出来るとの話がありました。また関わり方の具体的なコツとして、相手との距離や位置、目線の高さ、声の大きさやスピード、音の高低など、雰囲気や言葉の配慮はもちろんのこと、自分に興味を持ってくれる人や自分の話を理解しようとしてくれる人に対し興味を持ちコミュニケーションを取ろうとする、伝えたいと思うというお話は特に、自分の日頃の支援を振り返る機会となりました。

『あたり湯』ドラマのロケ地に！！



わたげが委託清掃をしている銭湯「あたり湯」がドラマのロケで使われます。TBS系列土曜夜8時『タンブリング』であたり湯が登場します！！奥様のお話では、ロケ隊の人たちが「きれいに掃除されてますね」と言っていたそうです。これからもますます磨きをかけていきま～っす！！



たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員 1口	3,000円
	団体会員 1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2009年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度皆様からいただきました会費については下記のとおりので、ご報告申し上げます。

(自 2009年4月1日 ～ 至 2010年3月31日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	535,959	わたげへの寄付	2,584,000
会費 個人	2,072,000	振込み手数料	240
利息	119	消耗品	630
		次期繰越金	23,208
合計	2,608,078	合計	2,608,078

以上 会計 常田 ちよ子



2009年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないことを証します。

会計監査 對比地 祐子



石黒 あつ子



皆様より会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。



編集後記～編集部～

今回のこっとなあぷはなんと 10 ページ！利用者さんのチャレンジング&チェンジング、それに学んだ職員員の熱い思いを余すことなくお届けします！！新年度、気持ち新たに目標を持って走り出す季節ですね。私の目標は、『有言実行』これに尽きます・・・。目標達成して、3月には自分をほめたいです！ 庄司

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
TEL:046-844-0038 / FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp